論説

「漢方」の語の由来と意味

小曽戸 洋

北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部，東京，〒108-8642 港区白金5-9-1

キーワード：漢方，方技，方術，医方

Origin and Meaning of the word "Kampo"

Hiroshi KOSOTO

Department of Medical History, Oriental Medicine Research Center of the Kitasato Institute, 5-9-1 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-8642, Japan

Key words : Kampo, hogi (technique of Kampo), hojutsu (art of Kampo), iho (therapeutic method of Kampo)

今号から本誌の英文題が"Kampo Medicine"に変更された。その変更経緯の過程で"Kampo"（漢方）という語は薬物（薬剤・方剤，とくに湯液）療法を指すものであり，鍼灸療法は含まれないのではないかと危惧する意見も一部にあった。『広辞苑』（岩波書店）には「漢方」は「中国から伝来した医術」とあり，『日本語大辞典』（講談社）には「中国から日本へ渡来した医術。江戸時代に日本独自の発達をとげ一応の完成をみた。西洋医学をもとにする現代医学とは発生も体系もまったく異なる。漢方薬による薬物療法を重視し，ほかに鍼灸などの療法がある。……」と解説されているから，現代一般には鍼灸療法も含まれるとするのが常識のようであるが，今回の英文題名の変更を機に，改めて「漢方」の語の意味を考えてみたい。

「漢方」の「漢」はいうまでもなく「中国」という意味であろう。漢（前漢・後漢）は本来は固有の王朝名ないしは時代を指すが、とくに日本人は古来，「漢」を中国の代名詞として用いてきた（唐も同様）。すなわち日本人は自国の事物を表わすに「和（倭）」や「国」の字を冠し，彼国を表わすに「漢」や「唐」の字を冠したのである。「漢字」⇔「国字」，「漢文」⇔「国文・和文」，「漢語」⇔「国語・和語」，「漢籍」⇔「国書」などみなしかりである。「漢方」も例外ではなく，「蘭方」や「和方」に対する語にほかならない。

「方」とは何か。この場合，「方」は手段・方法・技術の意であり，「方技」「方術」「医方」を指すものと考えられる。

特殊な技能を要する職は多いが，わけても医はもっとも高度な技術を要するものとされた。人命を扱う技だからである。よって「方技」「方術」は漢の時代からとくに医術を指す語として用いられるようになった。『漢書』芸文志に医家の書を包括して「方技」（医経・経方・房中・神仙）と称し，『漢書』平帝紀に「史篇・方術・本草」の語が見え，『後漢書』に医家を含む方術伝があるがごとくである。方技書の医経の筆頭は『黄帝内経』であるから，「方技」「方術」に鍼灸術が含まれることはもちろんである。

「医方」の語は『史記』以来，典籍にしばしば見える。これに鍼灸の含まれることは多くの例をあげるまでもない。『史記』ではとくに秘伝の医方を「禁方」と称している（孝武紀・扁倉伝）。

以上のことから「漢方」とは「漢方技」「漢方術」「漢医方」のことであり，「中国の医術」と同義であることが理解されよう。前掲の『広辞苑』の説明は正しいが，本来は「日本人が中国から伝来した医術を指していった言葉」といったほうがより正確であろう。中国では自国の医学をあえて「漢方」という必要はなかった。西洋医学が入ってからは自国の医学だから「国医」と称し，中華人民共和国成立後は「中国医学」を略して「中医学」と称したのである。であれば，これに対し日本化された中国伝統医学を「漢方」と称してもあながち問題ではなかろう。

「漢方」が薬物療法に限定されると感ずるむきがあるのは，「方」といえば「方剤」「方薬」を想起させるのが原因と思われるが，「方」はこの場合「医」の意であることを重ねて強調したい。

受付：2002年11月22日，受理：2002年12月5日

なお，わが国で「漢方」という語がいつから使われだしたかについてはこれまで研究がなく，上限は確定できない。「蘭方」ないしは「和方」の語が定着したことにともなうもので，江戸時代後期のことであろうか。浅田宗伯の七絶詩に「古杏叢中，此の身を委ね，唖然，独り味う漢方の醇，……」とあるから，宗伯の時代には，人口に膾炙していたことは確実である。